

三つやの光



要理問答



御遺文

靈に活きる念佛

宗教心を成立して宗教的の目的を達せんには安心、即ち心の安置かたが大事である。此安心にして過たば起行の功果なし。光明主義の念佛安心は一心に念佛すれば如來の光明を蒙りて攝化せらる即ち卵の孵化する如くに我人の心靈が靈活す、即ち信心が生まれ来る。如來慈悲の光明は念佛する處に加はり、如來の憶念衆生と衆生の佛を念ずるあたゝかなる處に心靈が孵化す。その念佛するに就いての安心が、必ず一心に念佛する時は心靈復活すと信じ彌陀は我等念佛衆生の心靈を靈活せしめ給ふと深く信じて念佛する時は必らず靈に活き靈に生るゝこと必せり。安心が信仰の死活を致さしむる所以こゝにあり。若し念佛すれば現世には別に心靈上に及ばざるも死の覺悟となると云ふが如きは死後の往生だけを期する如きは即ち安心が人の心靈の復活を妨げて心靈的に死なしむ。故に安心は例へば彼の催眠術の闡示 缺點を そしる人 病氣治す。若し反對に類す。術者が被術者 汝が病氣治せずと闡示は必らず治る汝を活す。汝が病氣治せずと闡示を與ふれば必ず全快せず。此闡示は人の信仰を死活の何れかに分たしむる所以。また家庭に於て其子女に對して汝は善くない汝は意氣地ないといつて意氣地なしとつねに何事に就ても意氣地なしと咄して計り居る

時はつひには其子の爲めに自然と闡示と成て其子は性質を變化して全く意氣地なしに化して仕舞ふ。其と反對に汝は敏利なり能く汝は氣がつく汝は氣が敏いてをると其闡示を以て精神を引立てる時は其子は全く敏捷の性質に化すと云ふ。 くだらないことを 考ふるほど 事の事なり。 されば世の宗教家が 其信者を靈的に活かしまた靈的に死なすべからぬことはい 光明主義は人を靈的に活すことに努力せん、靈に活きたき者は我に來れと叫ばん。

佛教要理問答

目錄

- 第一課、道を求める必要の事、六ヶ條
- 第二課、如來に三身まします事
 - 一、法身のこと、及び法身の機能のこと
 - 二、報身のこと、及び報身の相好、報身の徳のこと
 - 三、應身のこと、應身の降生、入山學道、佛陀成道のこと
- 第三課、信仰に依て心を安んずる事
 - 一、所求の涅槃のこと
 - 二、所歸の如來のこと、如來の智慧と慈悲、超世本願の説明、二種の罪のこと
 - 三、三心のこと及び三心に依て與へらるゝ三益の事

第四課、行儀に依て信仰を進むる事

一、恩寵喚起のこと、五種の正行のこと

二、恩寵開發のこと

三、恩寵體現のこと

四、三種行儀のこと、歸敬、堅信、布施、懺悔及び臨終行儀のこと

第五課、勤行式の事（註—別冊禮拜文の巻第二式）

一、光明歎徳頌

如來壽量頌

朝夕の祈禱

佛教要理問答

第一課 道を求むる必要の事

問。人に最も必要なるものとして求むべきは何になるか。

答。人の生存に對し是れが最終の目的と指導とを興る宗教なり。

問。宗教は如何なる真理を教ふるものなるか。

答。最終の目的に従ふ身と心との向上を得んがために偉大なる力を有てる靈格に歸依し此に依て永遠の生命と常住の平和とに入る道を教ふるものなり。

問。偉大なる力を以る靈格を何と名るか。

答。眞の神「如來」亦「アミタ」と名なり。

問。如來は唯一のみなるか。

答。唯一なる一體にして三の相あり、法身、報身、應身なり。

二

第二課 如來に三身まします事

問。法身とは何なるか。

答。天地萬物を産出し、之を統一し、擔保する如來なり。

問。法身は如何にして在るか。

答。始もなく終もなく、法身自ら存在するなり。

問。法身の在るべき所ありや。

答。法身の在るべき處なし。何處にも都て在るなり。

問。法身に形ありや。

答。形なし。

問。法身に如何なる權能あるか。

答。一切智と一切能の權能あり。

問。一切智とは何になるか。

答。天地萬物に秩序あらしむる作用なり。

問。一切能とは何になるか。

答。天地萬物をして生々活動せしむる力なり。

問。報身とは何になるか。

答。一切の萬類を開發して眞と善と美との處に攝取る權能を有てる如來なり。

問。報身は何處に在ますや。

答。最高徳と最靈福との靈界に在すなり。

問。報身に相好ありや。

答。萬徳の圓滿を表す最と麗しき相好を備へ給ふなり。

問。報身に何の徳ありや。

答。無上の智慧と無限の慈悲等の豊富の徳滿せ給ふなり。

問。最と高き靈界に在す如來は如何にして衆生を救濟たまふや。

三

五

四

答、無限の慈悲より此世に應身を降し給ふなり。

問、應身とは何なるか。

答、無明と罪とに迷ひ惱る衆生の機感に應じ迹を垂れてそれを救靈給ふ如來なり。

問、應身に種類あるか。

答、應化身と靈應身との別あり。

問、靈應身とは何なるか。

答、信仰の心機に感應し其人を靈化し靈の生命に入らしむる身なり。

問、應化身とは何なるか。

答、一切衆生を救はんが爲に靈界より降りて神を肉體に托し行爲と言語と思想とを以て人類を化度給ふ身なり。

問、應化身は如何にして降生し給ひしや。

答、化身が正に地上に降らんとするや兜史多の天宮に在して時と處とを鑑み給ひ、先づ靈の勝れたることを示さんがために智勇仁德兼備れる父母と文化の土地とを撰び給へり。

問、化身降生の地は何處なりしか。

答、中印度國伽比羅城の王宮なり。

問、化身降生の時は何時なりしか。

答、今より（明治三十七歳）二千四百十餘年前の百花咲き香ふ四月八日なり。

問、父母の名は何になりしか。

答、父は首都駄那大王にして母は摩訶摩耶夫人なり。

問、降生の化身は何と名けられしや。

答、喬陀摩悉達多太子と名けられたり、譯すれば喬陀摩は最勝、悉達多は一切成就の義なり即ち「最も勝れて凡ての事業を遂ぐる」と言へる美はしき名なりき。

問、喬陀摩悉達多は太子たる時、何を學び給ひしか。

答、喬陀摩悉達多は太子たる時、何を學び給ひしか。

七

答、五明四吠陀を始め射御武藝を習ひ試るに一つとして成らざるは無かりき。

問、喬陀摩悉達多は成長して何を爲し給ひしか。

答、降生十七歳、妃、耶輪陀羅維姫を迎へて太子羅喉羅を得給ひ、降生廿九歳苦行林に入り降生三十五歳十二月八日佛陀伽耶、金剛座上に於て正覺を得たまへり。

問、喬陀摩悉達多は何故に榮華の生活と尊貴の王位を捨て給ひしか。

答、世の富貴や名譽や權威やは靈の貴きに如ざる事を示さんがためなり。

問、喬陀摩悉達多は何故に先に學びしものを捨て給ひしか。

答、世の學術と技藝とは心靈を開發て眞理を悟るに足らざりしが故に山に入て道を學ぶに至れり。

問、喬陀摩悉達多は山に入て何を爲し給ひしか。

答、苦行林に跋伽婆を訪ひ續きて阿羅邏、鬱曇羅摩の二仙人に教を聞きて其意を得ず去りて尼連禪河の東、象頭山に入り苦行つぶさに辛酸を嘗めて六年を経たまへり、一日喬陀摩、河に沐浴し僅に樹枝に攀ちて岸に上るや、身心疲れ病みて地に仆れ給き、偶々牧羊の長の娘にして難陀婆羅と名るもの來るに遭ひて彼が牛麀の供養を受けて頓に氣力を回復し、南の方、佛陀伽耶に至り菩提樹の下に軟草を敷て坐し靜に禪那三昧に入り給ひき、時に大地震ひ轟きて天地忽ちに暗黒となり電、閃き砂塵渦き上り人をして驚き死せんめんとせり、これ天上の大魔王が喬陀摩の修行を碍げんとして企てたるなり。

問、喬陀摩の修行は成就したるか。

答、喬陀摩の禪那三昧に入れるより四十九日を経たる臘月八日、東の天に明星の輝き出ると共に救世の大菩薩喬陀摩は朝に罪惡の根源と之を解脱たる涅槃の大道とを悟り給き、之を佛陀の成道と名く、嗚呼偉なる哉。

第三課 信仰に依て心を安んずる事

問、佛陀は成道の後、何にを爲し給ひしか。

九

問。如來に歸依して涅槃を求むるの道を教へ給へり。

答。涅槃とは何になるか。

問。永恒に自らありて變る事なく衰る事なき常世の靈界なり。

答。常世の靈界に如何なる福と樂ありや。

問。彼國の萬物は金銀珠玉を以て莊嚴れ光明常に輝きつゝ平和と自由とを以て満

答。されたる處なる故に「スマタイ」と名く即ち極樂淨土の義なり。

問。我等が最終の目的に歸越ために歸依すべきは何になるか。

答。報身の如來、即ち「阿彌陀」なり、阿彌陀とは譯すれば量なき光明と盡なき壽命

とを備へ給ふ靈格の意味なり。

問。如來に何の徳有しますや

答。無上の智慧と無限の慈悲となり。

問。無限の慈悲とは何になるか。

答。親しきと怨あると賢きと愚なる者とを等く吾子として慈み給ふ御心なり。

問。無上の智慧とは何になるか。

答。人の見ざるに見、人の聞ざるに聞、人の知らざるに知り、また正知見を與へ玉ふ

作用なり。

問。如來は此等の能力を以て何を爲し給ふや。

答。超世の本願力を以て一切衆生を須摩提に攝取し給ふなり。

問。超世の本願力とは何なるか。

答。如來を信仰する衆生を罪惡と苦惱との内より救ふて須摩提の妙樂を與へ無上菩提

を得せしむる作用なり。

問。信仰とは何なるか。

答。今の主我は愚にして力なく且つ罪と惱なるを自覺し從前の罪を悔ひ改め絶對的に

如來を依歸む心なり。

問。衆生に何の罪あるか。

答。根本罪と自造罪なり。

問。根本罪とは何になるか。

答。慈父たる如來の在すことを知らず亦た自己に與へられたる「靈性」を開發を怠り

主我を脱却すべきことを許容罪なり。

問。自造罪とは何になるか。

答。凡ての衆生が已に犯し今犯しつゝある罪なり。

問。信仰の心に種類あるか。

答。至心、信樂、欲生、と言ふ三心の別あり。

問。至心、即ち至誠の心とは何になるか。

答。主我の妄想を捨て眞理の本源なる如來を信する心なり。

問。信樂の心とは何になるか。

答。至誠心を以て自己及び總ての物に超て如來を愛し、また如來が慈み給ふ凡ての物

を愛する心なり。

問。欲生の心とは何になるか。

答。御國の地上に格らん事を冀ひ、如來の世繼として御旨を表さん事を望みて活動く

心なり。

問。三心を起したる者に與へらるゝ功德は何になるか。

答。如來の「法王子」たるの光榮と無上の靈福となり。

問。靈福に種類あるか。

答。啓示の恩寵、融合の恩寵、靈化の恩寵あり。

問。啓示の恩寵とは何なるか。

答。如來の相好、光明等の靈應を感じし神聖智慧等の聖意を知見さるゝ靈福なり。

問。融合の恩寵とは何なるか。

答。恩龍の加はるところ自ら罪と惱とより離れて如來の聖懷の中に安立し平和と歡喜とに充さるゝ靈福なり。

問。靈化の恩龍とは何なるか。

答。聖意によりて更生り我執及び俗情私情に克ちて高等人格とせらるゝ靈福なり

第四課 行儀に依て信仰を進る事

問。行儀とは何なるか。

答。如來の恩龍を得る信仰を進るために作す所の修行及び儀式なり。

問。修行に幾階級ありや。

答。恩龍の喚起(資糧位)

恩龍の開發(修習位)

恩龍の體現(通達位)

問。恩龍の喚起とは何なるか。

答。宿善若は聞法に依て如來に歸依する一念を發起し「更生」の恩龍を得んが爲に此れが資糧となる修養を爲す位なり。

問。如來に歸依したる心靈の糧となる修行に幾種ありや。

答。讀誦、禮拜、觀察、稱名、供養あり、此を五種正行と名くるなり。

問。讀誦正行とは何なるか。

答。救世の福音を記せる聖典を讀み亦其意義を解り亦は師友の教導を聞いて信仰を養ふ修行なり。

問。禮拜正行とは何なるか。

答。畏敬と懺悔と讚歎と感謝との誠心を表さんが爲に讚美の頌を歌ひ如來の寶前に伏し跪き拜む等の修行なり。

問。如何なる時と處とに於て禮拜を行ふべきか。

答。如何なる時にも如何なる處にも行ふべきなり。

問。殊更に時と處とを選んで禮拜を行ふ事ありや。

答。朝、睡眼より醒たる時、食前、食後、業務を始る前と終、夜に入り寝る前、また特別に教會に出席して行ふべし。

問。禮拜の時に爲す懺悔とは何なるか。

答。一日の内に於て主我の爲したる思想と言語と行爲とを省み若犯したる罪あらば如來に許容を求むる修行なり。

問。自己を省みる罪の目録ありや。

一、如來に對して一 如來を忘れざりしか 二 祈念を怠らざりしか 三 祈念の時邪まなる思を起さざりしか。

二、他人に對して輕侮、憤怒、嫉、害意、凌辱等なかりしや。

三、己に對して傲慢、懶惰、染汚、不攝生、不忠愛等なかりしや。

問。觀察正行とは何なるか。

答。靜座して須摩提の莊嚴と如來の妙相及び内包の徳を冥想憶念して此れが表象の證驗を得んとする修行なり。

問。稱名正行とは何なるか。

答。一心に専ら如來の御名なる「ナムアマダブツ」を唱へて須摩提の往生を求め如來の境界を憶念して御旨の顯んことを祈る修行なり。

問。如來の境界とは何なるか。

答。歡喜の光は紺青の空に輝き、平和の風薫る淨土に居て三十二相の眞容麗く常に十二の大光を放ちて百億の世界を照し四苦に惱る我等に解脱の法藥を施して止み給ざるなり。

問。供養正行とは何なるか。

答。自己の身、命、財を獻ると共に三業相應の長養を勵み外には如來の光榮を尊すべき活動を爲す修行なり。

問。五種正行の中に於て最も勝れ行ひ易きは何になるか。

答。第四番目の稱名正行なり。

問。五種の正行は恩寵喚起の時にのみ爲す修行なるか。

答。恩寵の開發、恩寵の體現の三期に缺くべからざる修行なり。

問。恩寵喚起の修行を策進する方法ありや。

答。信、進、念、定、慧、なる注意法あり、之を五根と名く。

（一）信とは如來の實在を認む（二）進とは如來の靈に向て修行を勵む（三）念とは常

恒に如來を憶念す（四）定とは如來に一心を注ぐ（五）慧とは心靈の醒覺なり。

問。恩寵の開發とは何になるか。

答。恩寵喚起の修養漸く進みて啓示の恩寵を得て心情自ら如來の聖懷の中に安住する修行の位なり。

問。恩寵開發の修行を勵す方法あるか。

答。念佛三昧を修す此が注意法を七覺支と名く。

（一）擇法覺支、自餘の思想を捨て一に如來に注ぐ（二）精進覺支、一心に如來を念

じ專精勇猛なり（三）喜覺支、僅に靈に感觸して歡喜に滿る（四）輕安覺支、心、

靈に托して軽く身安穩なり（五）定覺支、妄想の波靜つて意思靈と冥合す（六）捨

覺支、初は意を用ざれば靈と合せざりしも今は自在に靈に安立することを得る

に至る（七）念覺支、念に靈と相應す。

問。恩寵の體現とは何になるか。

答。思想と言語と行爲とが自ら如來の聖意に契て自他兼濟の活動を爲すに至る位なり

問。自他兼濟の活動とは何になるか。

答。四攝、六度、十二徳杯の實行なり。

問。修行を爲すに特別の儀式ありや。

答。尋常行儀、別時行儀、臨終行儀なる三種の儀式あるなり。

問。尋常行儀とは何になるか。

答。日々普通に爲す所の懺悔、讚歎、感謝、請求の修行なり。

問。別時行儀とは何になるか。

答。特別の恩寵を得んが爲に特更に時と處とを選んで行ふ所の儀式なり。

問。別時行儀に種類あるか。

答。歸敬、得度、布薩の三式あり。

問。歸敬式は何れの時行ふか。

答。誕生の時、婚姻禮の時、初發心の時に行ふなり。

問。布薩とは何なるか。

答。教友と共に罪を誹ひ改め信仰を養はんがために爲す所の種々の修行なり。

問。布薩に種類あるか。

答。懺悔、信仰の告白、傳道等の別あり。

問。懺悔とは何になるか。

答。根本罪及び自造罪の許容を得んがため殊更に行ふ儀式なり。

問。罪は何に依て赦るゝや。

答。糾明、痛悔、表白、噴罪の誓に依て免るゝなり。

問。臨終行儀とは何になるか。

答。死期に臨みて魔障を祓ひ如來の聖容を拜み正念に往生せんことを求むる爲に行ふ儀式なり。